

---

# 先生、あなたのおかげで私の周りは騒動が絶えません

那雲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

先生、あなたのおかげで私の周りは騒動が絶えません

### 【Nコード】

N20730

### 【作者名】

那雲

### 【あらすじ】

先生の頼みごと（＝厄介事をおしつけられただけ）に振り回される生徒の話。

## 序記

四月。暮坂高校に通うことになった私こと、盾崎真白<sup>たてざきましろ</sup>は、桜並木を眺めながら始まる高校生活に思いを馳せていた。

しかし、私の、これから始まる高校生活に寄せていた期待や夢は粉々に碎かれることとなった。

そう、奴の出現によって。

……面倒ごとは私に全部押しつけて……！！　くそぉー、あの野郎お、今に見てるおおおおお！！

あ、すいません。げぼっ、ごほん。

今のは聞かなかったことに。

この話は、私が体験した、奴の横暴による苦勞記です。はい。  
みなさん、どうか私の苦勞を読……

痛ったい！！

げ、いつの間に。

頭を押さえて振り返ったら、手に出席簿を持ちつつすら寒い笑顔を浮かべた奴がいました。

首を軽く傾げて何書いてるのかな？　って言ってます。  
言っわけないじゃん。言ったら殺されるし！！

奴って誰かって？

それは奴です。奴は奴以下でもそれ以上でもありません。

あーでも、詳しく言うなら奴っていうのは私のクラスの担任である  
たてまちそうすけ  
楯菜奏空、腹黒男のことですよ！！

って、痛い！！

……また叩かれた。

ていうか。

「内容見えてんでしょ！！」

腹黒のくせに、美形で性別問わずに生徒に人気あるから余計に腹が  
立つ！！

……みんなこの人の本性を知るべきだよ、ほんと。

あ、もうなんか先生の顔が臨界点ぎりぎりのところまできたって顔  
してるから、今は部室に行きます。

……じゃあ、生きてたらまた後で。

## 序記（後書き）

更新不定期ですので

>「――」<よろしくお願いします

## 先生の頼みごと1 不登校児の説得(1)

先生の頼みごと(随分美化された言い方だけど)は、生徒の自分としてはなるべくなら聞かなければいけない。

まあ、たいていのことなら。

でも、うちの担任に限っては、そんじょそこらの先生とは違って、頼む内容がおかしなことばかりだ。

明らかに先生がしなきゃいけない仕事であるはずなのに、生徒の私にそれを押しつけているのだ。

何たる職務怠慢!!

まあ、もし自分が教師だったとしたら、先生と同じように遠慮した内容ではあるけどね! だって、何より平穩無事が一番だし。

でもね、先生の「頼みごと」によって、私の日常はそうはいかない。まあ、先生の日常は平穩無事であってもね。

はあ。まったく、未来を思うと気が重いよ。

だって、これから、学校一の問題児と言われる金城燈夜のところに行かなくちゃならないしね。先生の頼みごとのせいで。なんか金城燈夜は不登校続きで、出席日数が危ういんだってさ。それで学校へ来るように、説得役を任されたんだよね、先生から。

金城燈夜は教師に暴力を振るうほど手をつけられない人物だって聞くから、もう本当に気が重いよ。

まあ、一応説得役を任されたんだし、試みるつもりではあるけどね。でもね、無理な感じだったら、先生に言うつもりだけどね。

だって、元々こういうのは先生の仕事だしね。

ていうか、説得する以前に、本人がどこにいるのかわからないもんで、捜さなきゃならないんですけどね。

今放課後なんだけど、家にも帰ってないらしいし。

先生の情報によると。

あ、今ちなみに昨日目撃情報のあった河原の側を歩いてるんだけど。

これも先生からの情報。

金城燈夜の姿は、うーん、見当たらない……。

ここの河の上、橋が通ってるんだけど、もしかして、漫画みたいに橋の下で喧嘩してましたー……っていう状況じゃあないよね、そんな漫画みたいな話があるわけないよねー、だよねー、ないよねー……。

とか思いながら土手を降りただけだね。

うん、え？

まさかと思つてたらなんか本当に、橋の下で何か声が聞こえるんですけど？

なんか遠くで怒声とか罵声が飛び交ってるように聞こえるんですけど。

え、空耳？空耳だよね？

あはははー。

首をゆつくりと声が聞こえる方向へ動かしたら、狗城南高校の数人の生徒に囲まれた、うちの制服を着た生徒が見えた。

おおー。

あれがもしかして噂の金城燈夜？

先生からもらった容姿の情報と合致するのはするなー。

お、人数的には不利な感じだけど、金城燈夜頑張ってるなあ。南高なんこうの奴らに遅れをとってないし。

やるなあー。やっぱり腕っ節強いんだなあ。

とか感心してみてただけど。

なんか、南高の一人が私に気付いたようで、意地悪気な笑みを浮かべてこっちにやって来るんですが。

あー、金城燈夜に負けそうなんで、私を利用して彼の動きを止めようってわけですか。

全く、考えてることがセコイ。

すでに正々堂々、対等じゃないってのに、それでもまだ卑怯な手を使おうとするって、私としてはどうかと思うんだけどなあ。

あー、後三メートルくらいで南高の奴が私の前に来るなあ。  
そういや、今日何の教科書入ってたっけ…。

ああ、現代文に、数学に物理に、英語に、その他諸々教科書入って今日の鞆、それなりに重いんだよね…。

そんなことを考えながら両手で鞆を強く握り直す。

そして、鞆の重さを利用し回転、遠心力を使いながら、鞆を近づいてくる南高の男の顎を思い切り殴りつけた。

「ぐはっ！」

南高の男が声を上げて倒れ、地面に伸びた。

おー、やった、成功、成功。

顔を上げて、金城燈夜たちの方を見ると、私がそんなことをしていた間に既に南高の奴らの人数は半分以上に減っていた。

現在は、突然の事態にみなさん、動きを止めていらっしやいますので人数に変化はないです。

そりゃあ、突然見ず知らずの人間に喧嘩邪魔されたら、誰でも驚くよね。

さて、どうしよう。

ていうか、私、どうなる？

場合によっては、金城燈夜より私が倒す相手の優先対象になったりして……。

……あ、えーと今度の予想は裏切られました。

半分に別れちゃいました。四人だったので、二人ずつに。

金城燈夜に背を向けて二人の男がこっちに歩いてくる。

彼らの肩越しに金城燈夜が、自分に襲いかかってくる男たちを殴り飛ばしているのが見える。

おーなんか、瞬殺？ いや、秒殺？ 金城燈夜少し怪我してるみたいだけど、あの人数であれだけの怪我だけって、本当に強いなあ。

また、余計なこと考えてたら南高の奴らもうほとんど目の前だ。

でも、この感じだと

「おい、お前らー!!」



金城燈夜の怒声と共に、辺りに鈍い殴打音が響く。

「てめえ、やりやがったな！」

南高最後の一人が、金城燈夜へと殴りかかる。

しかし、懷に潜り込んだ金城燈夜にあっさりと倒され、氣絶する。

「おい、お前」

荒い息を吐き出しながら、金城燈夜が私を睨みつけた。

「こんなところで何してる」

金城燈夜が私を睨みつけてくる。

私は当然のように答えた。

「あなたを学校に来るよう説得しにきたの」

先生の頼みごと1 不登校児の説得(1) (後書き)

なんというか、作者が書きたいように書いてるので、さらさら読んでほしいです。

難しいことは考えないで。軽く読める感じで書いてるつもりです

更新は不定期なので、宜しく願います(\*・・)(\*――)(ペコリ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2073o/>

---

先生、あなたのおかげで私の周りは騒動が絶えません

2010年10月15日12時31分発行